

卒業・終了の要件 「2016大学院要綱から」

法学専攻(修士課程)

(2) 履修方法

- 1) 研究演習科目のうち1科目を専修科目として必ず修得しなければならない。
- 2) 研究演習科目を担当する教授を「指導教授」とし、講義科目の選択、論文の作成、研究一般についての指導を浮ける。
- 3) 修士課程の修了の要件
 - ① 修士の学位は、修士課程に原則として2年以上在学して、授業科目について30単位以上を取得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に授与する。その30単位の履修方法は次のとおりとする。

学年	科目	研究演習（必修）	講義
1・2年次		8単位	22単位以上

- ② 特定の課題についての研究（以下、「リサーチペーパー制度」という。）を選択した場合には、修士課程に原則として2年以上在学して、授業科目について38単位以上を取得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、リサーチペーパーの審査及び最終試験に合格した者に授与する。その38単位の履修方法は次のとおりとする。

学年	科目	研究演習（必修）	講義
1・2年次		8単位	30単位以上

- 4) 研究演習の単位を取得した者が、修士論文作成のために引き続き在学し当該指導教授の指導を受ける場合は、学年の始めに「修士論文」の登録をすることとする。リサーチペーパー制度の場合も同様とする。

5) 履修登録について

- ① 学生は、履修しようとする授業科目を記載した履修願いを指定の期日までに提出し、研究課長の許可を受けなければならない。

②〔単位互換〕

ア. 会計学研究科会計学専攻博士前期課程で開講される講義科目（演習科目を除く）を履修して修得した単位を、8単位を超えない範囲で、本研究科における専修科目以外の授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

イ. リサーチペーパー制度の場合にあつては、会計学研究科会計学専攻博士前期課程及び学部で開講される講義科目（演習科目を除く）を履修して修得した単位を、12単位を超えない範囲で、本研究科における専修科目以外の授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- ③ 本大学院が研究上有益と認めるときは、学生が本大学院の定めるところにより、他の大学院において履修した授業科目について修得した10単位を超えない範囲で、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。外国の大学院に留学する場合もこれに準ずる。

④〔協定校での履修〕

包括協定締結大学院（愛知学院大学大学院、中京大学大学院及び名城大学大学院。以下「協定校」という。）各法学研究科の開講科目を10単位まで履修することができる。

協定校において履修した授業科目について修得した単位は、本大学院法学研究科において認定した入学前の既修得単位と合わせて10単位を超えない範囲で、本大学院法学研究科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

企業法学専攻（博士後期課程）

／Sfi 履修方法

- 1) 上記の授業科目のうち1科目（研究指導）を専修科目として必ず修得しなければならない。
- 2) 博士の学位を取得しようとする者は、本学大学院の博士後期課程に3年以上在学し、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、修業年限に関しては、特に優れた研究業績をあげた者に限り、博士後期課程に1年以上在学すれば足りるものとする。
- 3) 専修科目を担当する教授を「指導教授」とし、講義科目の選択、論文の作成、研究一般についての指導を受ける。
- 4) 履修登録について
学生は、履修しようとする授業科目を記載した履修願を指定の期日までに提出し、研究科長の許可を受けなければならない。

会計学専攻（博士前期課程）

(2) 履修方法

- 1) 会計学特別研究のうち1科目を専修科目として必ず修得しなければならない。
- 2) 専修科目を担当する教授を「指導教授」とし、講義科目の選択、論文又は課題研究の作成、研究一般についての指導を受ける。

なお、修士論文を提出する者は、1年次の年度始めに指導教授に研究計画書を提出しなければならない。

- 3) 専修科目(会計学特別研究)は、別表のスケジュールにしたがって1年次から2年次にわたって進められる。
- 4) 博士前期課程の修了の要件

① 修士の学位は、博士前期課程に原則として2年以上在学して、授業科目について30単位以上を取得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に授与する。その30単位の履修方法は次のとおりとする。

学年	科目	研究演習（必修）	講義
1・2年次		8単位	22単位以上

② 特定の課題についての研究（以下、「リサーチ・ペーパー」という。）を選択した場合には、博士前期課程に原則として2年以上在学して、授業科目について38単位以上を取得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、リサーチ・ペーパーの審査及び最終試験に合格した者に修士の学位を授与する。その38単位の履修方法は次のとおりとする。

学年	科目	研究演習（必修）	講義
1・2年次		8単位	30単位以上

また、以下の科目のうち、1科目を必ず受講しなければならない。

【会計コース】 「企業法会計論研究」「税務会計研究」

【経営経済コース】 「経営戦略論研究」「財政学研究」「金融論研究」

「国際経済論研究」「経済政策論研究」

- 5) 演習の単位を修得した者が、修士論文作成のために引き続き在学し当該指導教授の指導を受ける場合は、学年の始めに「修士論文」の登録をすることとする。リサーチ・ペーパーの場合も同様とする。

6) 履修登録について

① 学生は、履修しようとする授業科目を記載した履修願いを指定の期日までに提出し、研究科長の許可を受けなければならない。

② [単位互換]

ア. 会計学研究科会計学専攻博士前期課程で開講される講義科目（演習科目を除く）を履修して修得した単位を、8単位を超えない範囲で、本研究科における専修科目以外の授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

イ. リサーチ・ペーパーの場合にあつては、会計学研究科会計学専攻博士前期課程及び学部で開講される講義科目（演習科目を除く）を履修して修得した単位を、12単位を超えない

い範囲で、本研究科における専修科目以外の授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- ③ 本大学院が研究上有益と認めるときは、学生が本大学院の定めるところにより、他の大学院において履修した授業科目について修得した10単位を超えない範囲で、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。外国の大学院に留学する場合もこれに準ずる。

会計学専攻（博士後期課程）

(2) 履修方法

- 1) 会計学特別研究のうち1科目を専修科目として必ず修得しなければならない。
- 2) 博士の学位を取得しようとする者は、本学大学院の博士後期課程に3年以上在学し、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、修業年限に関しては、特に優れた研究業績をあげた者に限り、博士後期課程に1年以上在学すれば足りるものとする。
- 3) 専修科目を担当する教授を「指導教授」とし、講義科目の選択、論文の作成、研究一般についての指導を受ける。
- 4) 履修登録について
学生は、履修しようとする授業科目を記載した履修願を指定の期日までに提出し、研究科長の許可を受けなければならない。

幼児保育学専攻

(2) 履修方法

- 1) 修士課程の修了の要件は、原則として2年以上在学して、別表-2の修了要件に従い、必修及び選択科目を合わせて30単位以上を修得し、研究指導を受けた上で、修士論文又は課題研究の審査及び最終試験に合格しなければならない。

別表-2 修了要件及び履修方法

		必修	選択	修了に必要な単位	備 考
修 了 要 件	基礎科目	2	—	2単位	
	基本科目	—	18	18単位以上	
	実践科目	—	2	2単位	3科目から1科目を選択必修
	研究科目	8	—	8単位	
	合 計	10	20	30単位以上	
履 修 方 法	修了のためには、上記教育課程の授業科目から修了要件に従い、必修及び選択科目を合わせて30単位以上を修得し、研究指導を受けた上で、修士論文又は課題研究の審査及び最終試験に合格しなければならない。				

- 2) 研究科目を担当する教員を「指導教員」とし、授業科目の選択、論文の作成、研究一般についての指導を受ける。
- 3) 研究科目（幼児保育学特別研究）は、別表-3（修士論文を履修・提出する場合）及び別表-4（課題研究を履修・提出する場合）のスケジュールにしたがって1年次から2年次にわたって進められる。

栄養管理学専攻

(2) 履修方法

- 1) 修士課程の修了の要件は、原則として2年以上在学して、別表-2の修了要件に従い、必修及び選択科目を合わせて30単位以上を修得し、研究指導を受けた上で、修士論文又は課題研究の審査及び最終試験に合格しなければならない。

別表-2 修了要件及び履修方法

		必修	選択	修了に必要な単位	備 考
修了要件	基礎科目	2	—	2単位	
	基本科目	—	18	18単位以上	
	実践科目	—	2	2単位	2科目から1科目を選択必修
	研究科目	8	—	8単位	
	合 計	10	20	30単位以上	
履修方法	修了のためには、上記教育課程の授業科目から修了要件に従い、必修及び選択科目を合わせて30単位以上を修得し、研究指導を受けた上で、修士論文又は課題研究の審査及び最終試験に合格しなければならない。				

- 2) 研究科目を担当する教員を「指導教員」とし、授業科目の選択、論文の作成、研究一般についての指導を受ける。
- 3) 研究科目（栄養管理特別研究）は、別表-3（修士論文を履修・提出する場合）及び別表-4（課題研究を履修・提出する場合）のスケジュールにしたがって1年次から2年次にわたって進められる。